

**憲法しんぶん 速報版**  
 発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007  
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2023年12月7日(水)  
 NO. 1433号  
 本号3頁

**憲法会議 冬の憲法講座を開催**

**渡辺治氏、「今、立ちあがる時 岸田政権の軍拡に反対し、  
 憲法改悪を阻止しよう!」とのテーマで講演**

3日、憲法会議は「大軍拡・憲法改悪を許さず、憲法を守り活かそう」とのテーマで2023年冬の憲法講座を全労連会館ホールで開催しました。

日本共産党の赤嶺政賢衆院議員が国会報告を行い、安保3文書に関連し、日本全土が戦場だと想定した10月、11月の日米軍事訓練、殺傷能力のある武器輸出の拡大は可能だとする政府見解の転換は重大な問題だと指摘しました。「争いごとを戦争にさせない憲法9条の意義を草の根で語り、改憲策動を押し返すこと、9条を生かした平和外交が今のこそ必要だ」と訴えました。

渡辺治一橋大学名誉教授が「今、立ちあがる時 岸田政権の軍拡に反対し、憲法改悪を阻止しよう!」とのテーマで講演。渡辺氏は、米国が対中国戦略として日本に集団的自衛権を行使できる体制づくりを要求していると指摘。憲法を踏みにじる、自衛隊の「戦争する軍隊」への改造と「戦争する国」づくり、対米追随・軍事ブロック外交への転換など岸田政権の軍拡と改憲が新たな段階に入ったと述べました。

また、岸田政権による大軍拡・改憲を阻止し、日本とアジアの平和をつくるために、集団的自衛権を行使しない、憲法9条改悪は許さないことが強烈なメッセージになると強調しました。そして、「イスラエルのガザ攻撃やめろ、ロシアのウクライナの撤退、岸田軍拡・改憲反対の声を草の根からあげ、野党共闘の再構築を求めることが大事だ」と語りました。

渡辺氏の講演は80分の予定でしたが、ご本人の希望で90分に変更しましたが、結局115分の講演となり、さらに質疑のコーナーでは4名の質問に丁寧に答えられ、参加者は渡辺氏の講演でしっかりと学びあうことができました。

司会は山田博子(担当常任幹事・婦人民主クラブ会長)、開会あいさつは浅川壽一神奈川憲法会議事務局長、閉会あいさつは渡辺政成埼玉県憲法会議事務局次長が行いました。



**渡辺治氏 「2023年冬の憲法講座」講演の柱 レジュメより**

はじめに

- 1 岸田政権はなぜ安倍政権を超える軍拡を推し進めているのか？
- 2 岸田政権の軍拡は安倍軍拡・改憲を超える新たな段階に踏み込んだ  
 - 「安保3文書」4つの危険
- 3 「来年秋までの改憲実現」 - 岸田政権は、なぜ明文改憲に前のめりなのか？
- 4 日本とアジアの平和をどうつくるか？ - 岸田軍拡に反対し、9条に基づく平和の構想を
  - (1) 改憲と軍拡でアジアと日本の平和は実現しない、逆に戦争への道を拓く
  - (2) 戦後日本が「戦争しない国」を続けられた2つの要因
  - (3) 「万一、中国が攻めてきたら9条なんて役に立たない」？

むすびにかえて

戦争させない78年を維持してきたことに確信をもとう。

軍拡・改憲を阻止しアメリカの戦争に加担しないと宣言することで、アジアの戦争に歯止めをかける。

いま、何が必要か？ - 3つの活動

- 1 イスラエルのガザ攻撃やめろ、ロシアの侵略地からの撤退、岸田軍拡反対、改憲阻止の声を、草の根から
- 2 集団的自衛権行使はしない、9条改憲反対、くらしを守る、の一致点で共闘再構築
- 3 衆院選で憲法擁護の立憲野党を大きくする

### 憲法講座のホームページからの視聴について お詫び

憲法会議の録画と講師のレジュメ等を4日に、憲法会議のホームページに掲載しますとお知らせしました。ところが機材の関係で渡辺氏の講演の録画(音声はOK)ができておらず、レジュメをもとにしたパワポ画面を組み合わせた動画をレジュメ等とともに4日から掲載しました。

また、赤嶺氏の国会報告は、しっかりと録画を掲載してあります。  
是非、ご自身の学習、お仲間との学習会等にご活用ください。

## 参院 憲法審査会 憲法9条改正などめぐり各党が主張展開

6日、午後1時より参議院の憲法審査会が開催され、自由討議が行われ、大規模災害など緊急事態での国会の機能を憲法に規定するかや、憲法9条を改正して自衛隊を明記するかなどをめぐり、各党が主張を展開しました。

自民党の山谷元拉致問題担当大臣は「自衛隊の明記と緊急事態条項の創設の条文案の具体化を進めるべきだ。来年の通常国会に向けて条文化を目指すため、作業部会を作り、審議をスピードアップしてほしい」と述べました。

立憲民主党の熊谷裕人氏は「大規模災害などの際の衆議院議員の任期延長は民主的正当性に疑義が生じることから、憲法改正は必要ではなく、参議院の緊急集会をしっかりと活用すべきだ」と述べました。

公明党の塩田博昭氏は「権力分立と国民主権の観点から、緊急集会と議員任期の延長のそれぞれの優れた点や問題点をこまやかに洗い出す必要があるのではないか」と述べました。

日本維新の会の猪瀬直樹氏は「国際法上の常識が通用する普通の国になるためにも9条への自衛隊の明記をはじめとした明確化が必要だ」と述べました。

国民民主党の磯崎哲史氏は「コロナ禍で顕在化した課題を解決する観点から緊急時に行政の権限を統制する対応策が必要だ」と述べました。

共産党の山添拓氏は「9条を生かした外交で平和への展望を開くべきだ。大軍拡を進める政治に改憲を語る資格はない」と述べました。

れいわ新選組の大島九州男氏は「参議院の緊急集会が平時の制度という見解は立憲主義に反する異論であり、断固反対だ」と述べました。

今回の参院憲法審査会は、今臨時国会で2回目の開催となり、毎週開催してきた衆院憲法審査会とは温度差がありました。また、公明党の衆院憲法審査会の北側氏は、5党派で議員任期延長問題で意見がまとまっており、次のステップに踏み込まなければならないと立憲民主党に態度を明らかにするよう迫っていましたが、参院憲法審査会の塩田氏は上記のように述べ、こちらも温度差を感じられました。

## 国会前で定例3の日行動 政治を変えようと150人

作家の澤地久枝さんの呼びかけで始まった、政治を変えようという毎月定例の行動が3日、国会前でわれ、約150人が参加しました。参加者は、1946年11月3日に憲法が公布された時刻、午後1時に合わせ、国会に向けて「とめよう汚染水」「まっとうな政治家がほしい」などプラカードを掲げました。

澤地さんは「政治は悪くなり、憲法が置き去りにされているが、あきれてばかりはいられない。考えることはいろいろあるが、一緒にやっ払いこう」と呼びかけました。

相模原市の60代の主婦は、汚染水放出の問題について「国民のこゝと、地球のこゝとを考ゑていない。政権交代で政治をリセットし、自然エネルギーに転換してほしい」といい、「人口の3・5%が行動すれば、政治は変えられると聞いた。わたしもその一人になりたい」と述べました。

「にんげんをかえせ」で知られる峠三吉の原爆詩が書かれた横断幕を持ち行動に参加した女性(81)＝東京都文京区＝は『ちちをかえせ ははをかえせ』で始まる『にんげんをかえせ』は、失った命は戻らないと言っている。今の時代に重なり、戦争になれば終わらせるのは難しい。人間の努力が必要」といいました。

次回は来年1月3日に行われます。

## **岸田首相が旧統一教会系トップと面談…元米下院議長認める**

岸田首相が旧統一教会(現・世界平和統一家庭連合)の友好団体トップと面会していたとする朝日新聞(4日付)の報道に激震が走っています。

これまで岸田首相は教団との接点について「知り得る限り関係はない」としていました。しかし、朝日新聞は、自民党政調会長だった2019年10月に党本部でGINGRITCH元米下院議長と面会した際、教団の友好団体「宇宙平和連合(U PF) ジャパン」の梶栗正義議長が同席。面談は30分にわたり、主に岸田首相とGINGRITCH氏が大統領選の情勢などを語り合ったが、梶栗氏と岸田首相も会話を交わし、梶栗氏は岸田首相に名刺を渡し、自己紹介したと報じています。同紙は5日付紙面に岸田首相と梶栗氏が写る面談時のものとみられる写真も掲載しました。

岸田首相は4日、記者団に「大勢の同行者がいたが、その中に誰がいたかは承知していない」とトボけ、名刺交換については「同行者と何をしたかは覚えていない」と否定できませんでした。

### **山際大臣は更迭したのに…**

松野官房長官は梶栗氏との面会の調査について「首相は『点検した結果、承知していない』と答えた。そのことに尽きる」と切り捨てました。

2022年8月の内閣改造で留任した山際経済再生相は、教団との接点について「覚えていない」を繰り返しましたが、その後、次々と接点が判明。岸田首相は事実上の更迭に踏み切りました。

山際氏は更迭したのに、自らの接点にはマトモに向き合わない二枚舌。これで幕引きは許されません。

### **岸田氏面談は「教団系が手配した」とGINGRITCH氏が説明**

7日の朝日新聞は一面トップで、GINGRITCH氏が朝日新聞の取材に応じ、トップらの同席は事実だと認めたと報じています。友好団体トップらもそれぞれ岸田氏と会話を交わしたといい、当時撮影したという「宇宙平和連合(U PF) インターナショナル」の会長と岸田氏が名刺交換している二人の写真を掲載しています。

岸田氏は自民党政調会長だった19年10月、党本部でGINGRITCH氏と面談。GINGRITCH氏によると、この場に、旧統一教会の友好団体「宇宙平和連合(U PF) ジャパン」のトップ、梶栗正義議長や、U PF インターナショナル会長で米国の教団の元会長、マイケル・ジェンキンス氏が同席していたと認めています。

朝日新聞はGINGRITCH氏にメールで取材を依頼し、6日に書面で回答があったと。GINGRITCH氏によると、「宇宙平和連合(U PF) インターナショナル」が面談を手配し、それぞれ会話を交わしたとして、当時撮影したという写真を提供しました。写真に納まっているのはGINGRITCH氏と岸田氏、梶栗氏、ジェンキンス氏だと説明しました。